

デザインから、発送まで
ワンストップでのご提供



目的に合わせてデザインから配送方法まで、
最適な形をご提案。
企画から発送までの一貫体制で、
手間とコストを削減します。

ディーエムソリューションズ株式会社
DM SOLUTIONS

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2-9-30 横浜西口加藤ビル3F
Tel:045-624-8758 / Fax:045-624-8759
Mail:info-ykhm@dm-s.co.jp



広告 当財団の法人会員で寄付などのご支援をいただいております。

IT'S ALL ABOUT GREEN PRINTING
環境印刷で刷ろうぜ

環境印刷を通じて「つくる責任つかう責任」を果たしていきます。

大川印刷
OHKAWA PRINTING, SINCE 1881
http://www.ohkawa-inc.co.jp

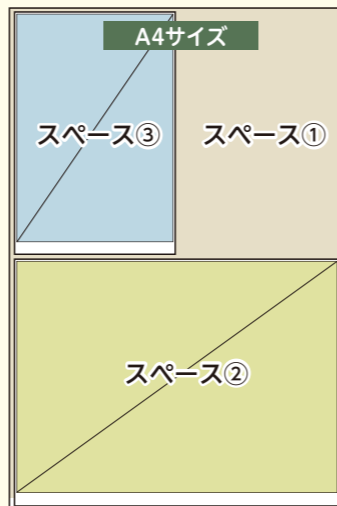
広告 当財団の法人会員で寄付などのご支援をいただいております。

財団事業をご支援いただいている法人・団体様を紹介いたします!

法人団体会員など財団事業をご支援いただいている企業・団体様の広告を募集しています。日頃の社会活動をPRする機会としてご利用ください。掲載料は機関紙「みどり」の制作費の一部として使用します。

規格及び負担額(掲載料)

規格	サイズ(幅×高さ)	掲載料
スペース①	全面広告 (180W×270H)	80,000円
スペース②	1/2広告 (180W×130H)	40,000円
スペース③	1/4広告 (88W×128H)	20,000円



年間契約の場合の掲載料は、3号分となります(1号分無料で4号に掲載)

**みどりのトラスト会員の
輪を広げよう!**

かながわのみどりを守り育てる運動を支えていただく会員を募集しています。県内のまちのみどりから山のみどりまでを保全し、後世に引き継いでいくために、皆さんの力が今こそ必要です。*入会のお問合せは事務局まで

5年分の会費を1回でお払いいただくと
6年間会員になれます。

普通会員

かながわのみどりを守り育てる運動を支える会員です。
会費は緑地保全や地域の緑化のほか、財団の運営に充てられます。

トラスト会員	普通会員	
個人	大人	2,000円
	中・高校生	1,000円
	小学生	500円
家族	1家族	3,000円
法人/団体	1口	10,000円

トラスト緑地保全支援会員
(オプション)

普通会員の方に任意の加入で特定の緑地(小網代の森緑地・久田緑地・桜ヶ丘緑地)を支援していただきます。会費の全額が支援緑地の自然再生や管理作業費用に充てられます。

トラスト緑地保全支援会員 任意加入

トラスト会員	オプション
個人/家族	3,000円
法人/団体	1口 10,000円

支援したいトラスト緑地のいずれかを選択

公益財団法人 かながわトラストみどり財団
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野2-12-20 ☎045-412-2525 ✉midori@ktm.or.jp
ミドリ(midori)No.111 冬号 2018 編集・発行: (公財)かながわトラストみどり財団 編集協力: 渡部 尚久 デザイン: (株)アド・カリエンス 印刷: (株)大川印刷

(midori) **みどり**

WINTER
No.111
2018

公益財団法人 かながわトラストみどり財団

丹沢のブナ林再生
リアルぬいぐるみ
桜ヶ丘緑地でむしとり大会10年目
〜哺乳類標本〜



1985年に発足以来、神奈川のみどりの保全と創造に関する様々な活動を展開しています。1万人を超える会員の支援や募金寄附、ボランティアの皆様の協力を受け、今ある自然環境を次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでいます。

☎ 045-412-2525
✉ midori@ktm.or.jp
@kanagawa_midori
facebook.com/ktm.or.jp
kanagawa_trust

CONTENTS

もくじ

自然へ一歩
「丹沢のシカ」
丹沢自然保護協会理事長
中村 道也 P.3

丹沢のブナ林再生
神奈川県自然環境保全センター
研究企画部研究連携課 P.4

葛葉緑地の取組
「リアルぬいぐるみ」
くずのは家指導員 味埜 真理 P.8

桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト
「桜ヶ丘緑地でむしとり大会10年目」
桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト代表
荒川 朱美 P.12

久田緑地
「森からの贈りものプロジェクト進捗状況」
街の木ものづくりネットワーク代表理事
湧口 善之 P.15

財団主催イベントのお知らせ
平成30年度緑化運動・育樹運動コンクール
受賞者発表 P.16

一里塚・四方山話 ㊦
「森林での癒やし体験」
神奈川森林インストラクター
小林 真理恵

イベント報告
アカテガニ放仔観察会
アカテガニ赤ちゃんの冬の
お家をつくらう観察会 P.17

事務局だより
新たな優待施設紹介
「湘南リトルツリー」
お便り紹介 P.18

会員の皆さまへ
※転居先不明で返送されるケースが増えていきます。
住所などの変更がありましたらご連絡ください。
※機関誌「ミドリ」は財団公式WEBサイト
(http://ktm.or.jp)で読むことができます。
個別の発送停止をご希望の方は財団事務局まで
ご連絡ください。

表紙の写真



触れるムササビ標本 記事▶P8へ
秦野市の葛葉緑地で新たな取り組みがはじまりました。
その名も「リアルぬいぐるみ」。

会員数 & 寄附募金のお知らせ

トラスト会員を募集しています。
会員の皆さまからご紹介ください!

現在の会員数 (2018年10月末現在)

	普通会員	緑地保全 支援会員
個人会員	3,802人	389人
家族会員	6,551人	616人
法人・団体会員	261人	26人
特別・名誉会員	319人	
計	10,933人	1,031人

遺贈による寄附について

近年、遺言による寄附について関心が高まり、これまでに遺贈を受けた公益事業を開始しております。遺言の財産受取人として、公益財団法人かながわトラストみどり財団をご指定いただけます。

相続税の非課税

相続された方が相続財産を、相続税の申告期限(亡くなってから10ヶ月)までに寄附された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。

「かながわトラストみどり基金」について

県内の優れた自然環境や歴史的環境を保全し、緑豊かな神奈川を次の世代に引き継いでいくために必要な資金を積み立てることを目的に、昭和61年に神奈川県に設置された基金です。この基金は緑地の買入れや財団の行う事業への支援など、「かながわのナショナル・トラスト運動」を推進する原動力となっています。

トラスト基金への寄附実績

累計額(2018年9月末現在) 14億1,151万1,743円

寄附者名(2018年7月~9月)(敬称略)
藤崎英輔、山本勝久、相模原機械金属工業団地協同組合、株式会社タズミ

トラスト募金箱設置による協力 (2018年7月~9月)(敬称略)

桜ヶ丘水辺のある森再生プロジェクト、藤田観光株式会社 箱根小涌園

「かながわトラストみどり財団」への寄附

財団へ寄附をいただきましたのでご紹介いたします。誠にありがとうございました。

寄附者名(2018年7月~9月)(敬称略)

相澤 正江、新井 通子、安藤 章子、安藤 誠治、池谷 善博、井上 哲也、井本 靖子、大島 照治、大塚 和夫、大西 紹夫、尾崎 俊朗、角尾 友春、加藤 高祥、加藤 美奈子、北川 淑子、日下 正武、久保 智子、久保 幸子、熊田 侃夫、児玉 英二、駒場 悦子、小峯 正、酒田 浩幸、佐野 育子、柴崎 えつ子、東海林 正明、菅沼 義保、菅野 実、鈴木 登喜子、高橋 敏雄、田中 洋子、田野井 弥生、堤 孝子、土肥 祥壮、濱尾 光吉、早川 昌子、古川 仁朗、山川 隆男、山本 勝久、渡部 明、渡辺 伸一、アサヒ飲料販売(株)、サンクトガーレン(有)

丹沢のシカ

境界線上の野生動物



なかむら みちなり
写真と文：中村 道也

NPO法人丹沢自然保護協会理事長

丹沢に限らず、シカやタヌキやイノシシなど野生動物の多くは人間の生活域と接する場所で生きて来ました。そのため人間と野生動物の生息域はお互いが行き来する目に見えない一本の線が境でした。私はこれを緊張感のある共存と表現しています。

1970年代以降、経済成長に伴い首都圏に位置する丹沢周辺の都市は拡大し、山麓部は企業誘致あるいはゴルフ場の開発や造成などで多くの自然環境が失われました。

このため野生動物の生息環境は攪乱^{かく}され、多くの野生動物は本来の生息域から山の奥に押し込められていきました。

ところが山の中では都市の拡大と時を同じくしてスギやヒノキの大規模な伐採や造林が行われていました。人工林の大規模伐採や造林は森林環境のバランスを崩すだけでなく、伐採により出現した草木はシカのような草食動物には豊富な栄養源となります。

その結果、シカはその数を爆発的に増加させました。シカは大食漢です。平野部を追われたシカは餌環境を求め人工林地から一気に丹沢の山頂部にまで生息域を広げました。いま盛んに言われる「シカによる食害」は人間の生活域拡大と森の改変から始まったと言えます。

それまで山の中でほとんど見る事のなかったシカの姿を丹沢のどこでも見るようになりました。

山麓部の森が減少し山の中が人工林に占有されたいま、多くの野生動物は生息域の縮小に留まらず、生存そのものが危ぶまれています。

小さな面積に900万人余の人口を抱える神奈川県にシカやクマなどの大型野生動物が生きていることは現代の奇跡と言えます。

そのことは同時に、次の時代に繋ぐ大切にしたい神奈川の財産です。



丹沢のブナ林再生



神奈川県自然環境保全センター
研究企画部研究連携課



▲衰退が進むブナ林(2012年竜ヶ馬場)[写真1]

丹沢のブナ林の特徴

丹沢山地は、神奈川県北西部に位置する約4万haの山塊であり、県面積の約1/6を占める大きな山の連なりです。都心近くにありながら、ブナやモミの原生林、ニホンカモシカやツキノワグマの大型野生動物など、豊かな自然が残っており、私たちが毎日使う水道の水源としてもかけがえのない、豊かな森林があります。

また県内では、丹沢山地のみまとまったブナ林があり、標高800m以上の主稜線に分布しています。これらのブナ

林は、標高800m以下のスギやヒノキの人工林や里山と比べて原始的であり、長い間の気候や地理的な変遷を受けて地域固有の動植物相による自然生態系が形成されています。丹沢山地のブナ林は、ブナ以外にもカエデ類やシナノキなど様々な樹木が混生することも特徴で、それらの樹木の下層には、標高1,400mまではササ(スズタケ)が分布し、標高1,400m以上では大型の草(高茎草本)と樹木の幹にはシダなどの着生植物も多くみられます。[写真2]

ブナ林の衰退

樹木は大気汚染や病害虫、高温・少雨や強風に長く強くさらされると、樹勢が衰え、光合成や根の水の吸い上げが弱まり、枝枯れが進み、さらに症状がひどくなると立ち枯れます。丹沢のブナの立ち枯れは1970～1980年代から目立ち始め、1990年代からは集団的な立ち枯れによる林冠ギャップの増加が顕著になり、2000年代以降もこの傾向が続いています。[写真1・図1]

健全な森林では、木が枯れると光が地表（または林内）に差し込むようになり、下で待機していた次の世代の若木が育ち、やがて元の状態の森林に戻ります。しかし丹沢では、次の世代の若木がなかなか育つことができません。増えすぎたシカが若木を食べてしまうからです。立ち枯れによりギャップが拡大し、若木が減った結果、森林が草地・裸地となってしまう場所が増えています。このような森林の草地・裸地化は、特に蛭ヶ岳から丹沢山・竜ヶ馬場にかけての



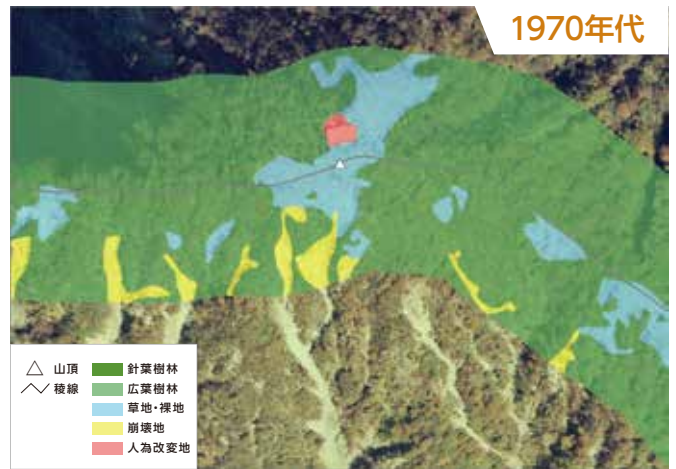
[写真2] 草木型ブナ林(上)とスズタケ型ブナ林(下)

主稜線と^{ひのきぼらまる}檜洞丸の山頂付近の南～西向き斜面を中心に生じています。

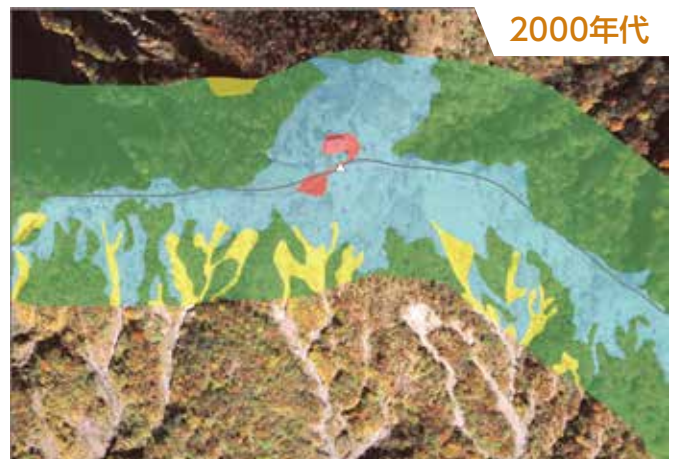
神奈川県はブナ林の衰退に歯止めをかけ、再生を目指して、自然環境保全センターを中心に、2001年から衰退実態の把握、衰退原因の解明、対策手法の開発へと調査研究を進め、その成果を基に2017年から衰退リスクの高い檜洞丸山頂周辺で、第3期丹沢大山自然再生計画及び第3期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画に位置づけられた「ブナ林再生事業」に取り組んでいます。

ひとことメモ

林冠ギャップ【りんかんぎやつぶ】
ギャップとは森林における高い樹木同士の間隙に隙間がうまれることをいいます。自然災害や病気、立ち枯れなどにより、ギャップがうまれることがあります。



1970年代



2000年代

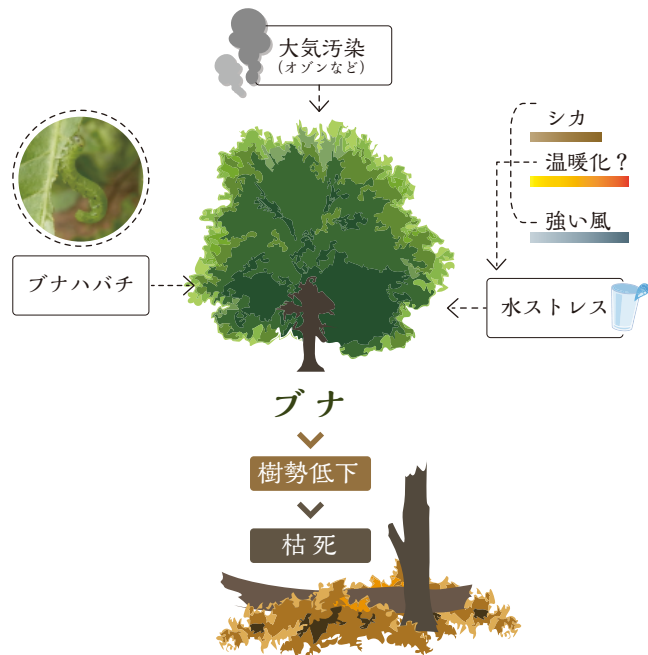
[図1] 1970年代から2000年代にかけての草地・裸地の拡大(蛭ヶ岳)

立ち枯れの原因

ブナの立ち枯れは、大気汚染物質(オゾン)の影響、水ストレスの増大、葉食昆虫のブナハバチの食害、シカの採食影響が複合的に作用して生じていることが分かってきました[図2・3]。丹沢のブナ林では、広域にわたるシカの採食に起因する林床植生の退行・消失による土壌乾燥化に伴った水ストレスが生じています。ブナの成長や光合成を阻害するオゾンの濃度は、平地よりも高標高で高濃度が維持されやすく、とくに山頂や稜線のような卓越風的作用が大きい地点でその影響が増幅されると考えられます。さらに、南向き斜面では、卓越風的作用に加え、ブナハバチの度重なる食害が生じやすいことが判明しています。また、ギャップ周辺部では乾燥やオゾン影響が助長され、立ち枯れが拡大すると考えられることがわかってきました。

ブナ林の再生の目標と対策

2004~2005年に実施された丹沢大山総合調査を経て作成された「丹沢大山自然再生基本構想」では、ブナ林の再生目標を次のように示しています。



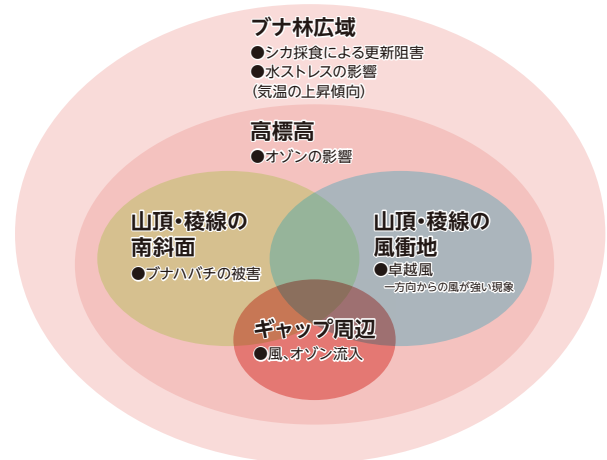
[図2] 丹沢山地のブナの立ち枯れメカニズム

ブナハバチ・大気汚染・水ストレスなどブナの樹勢を低下させる要因が複合的に作用して枯死に至る

『ブナ林は、丹沢山地のブナ林域の代表的な植生景観であり、その複雑な生態系は丹沢を特徴づける生物相を育んでいます。また、ブナを主体とする高木とササやかん木類など多様な植物から構成される森林は、水土保持の観点からも重要です。このようなことから、ブナ林域での再生目標として「鬱蒼とした健康なブナ林の再生」を掲げています。』

鬱蒼としたブナ林を再生するためには、まず現存するブナをこれ以上枯死させないことが重要です。そこで現在の立ち枯れにもっとも強く関与しているブナハバチの防除対策として、成虫を誘引捕獲する黄色の衝突板トラップ、幼虫が葉の摂食後に一旦落下してから樹幹をよじ登る習性を利用した樹幹粘着シートなどを開発しました。併せて、葉についた卵や幼虫を防除する薬剤の樹幹注入の試験を行っています。

次に、草地・裸地化した場所を森林に再生するには、次世代の若木を保護するため、シカ対策が必要になります。そこで植生保護柵を設置して林床植生を保護するとともに、山岳捕獲のスペシャリストであるワイルドライフレンジャーによるシカの管理捕獲によってシカの生息密度を低減し、柵外の林床植生の保護を図っています。また、林床植生が少ないとブナ林の生育基盤である森林土壌が雨で流されることから、水の流れ道や急傾斜地を中心に金網筋工等による土壌保全工を行っています。



[図3] 立地環境と複合作用の概念図

楕円の重なりが濃いところほど、ブナの立ち枯れへの影響が大きい

効果的な再生に向けて

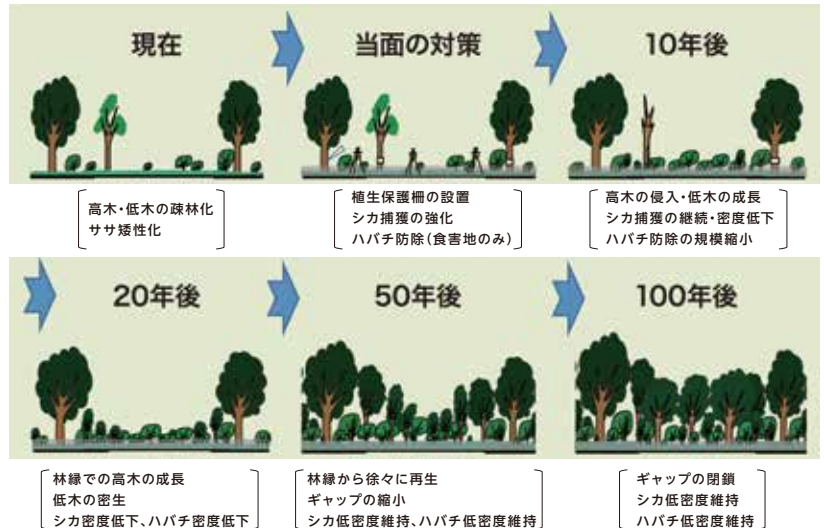
目標を確実に達成するためには、再生に要する時間と各時点で必要となる対策を示すロードマップが不可欠です。そこで、柵内での植生回復状況の長期モニタリングの知見を基に、ギャップの大きさに応じたロードマップを作成しました[図4]。

さらに、衰退リスクに応じた対策の優先度を地図化した「衰退リスクマップ」を作成し、再生優先地として大室山、檜洞丸、蛭ヶ岳～丹沢山の3地区を抽出しました。

このうち檜洞丸地区については、自然環境保全センター内で事業連携を図り、2017年度から各種対策を組み合わせたブナ林再生事業を開始しました[図5]。

事業の実施にあたっては、事業担当間で情報共有、調整を行い、林床植生、シカ、ブナハバチ、オゾンなどのモニタリング結果に基づき事業効果を検証し、順応的に進めています。

再生には50年、100年といった長い時間が必要になります。また、事業地は丹沢大山国定公園の特別保護地区に指定される自然度の高い地域です。事業効果を慎重にモニタリングしつつ、自然本来の回復力に重きを置いた長期的な取り組みによってブナ林の再生を目指しています。



[図4]大ギャップの再生ロードマップ



[図5]総合的なブナ林再生事業(檜洞丸)

詳細については、「丹沢ブナ林の再生指針」

(<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/fl60543>)に取りまとめているので、ご覧ください。



神奈川県自然環境保全センター

厚木市七沢を拠点にみどりの保全・創造に関する県民ニーズへの対応や、緑関連施策の効果的な展開並びに森林等の自然環境の保全再生に取り組む。



くずはの家
(秦野市曾屋1137)

「葛葉緑地の取組」

リアルぬいぐるみ

観察会グッズとしての哺乳類標本



- ①ムササビ
- ②ホンドテン(冬毛)
- ③ニホンイタチ
- ④ハクビシン
- ⑤ホンドタヌキ
- ⑥アライグマ

くずはの家指導員 味のま 真理

「これって本物?!」くずはの家を訪れた子供達に茶箱に押し込んだ動物たちを出してあげると、毎回こんな声上がる。「抱っこしてごらん」「触っていいの?…ワ〜ふわふわ・軽い!」「そうだよ〜毛皮は本物、中は綿が入っているんだよ」

…それは『もったいない』から始まった、抱っこする標本・リアルぬいぐるみです。

私が働いている秦野市の自然観察施設くずはの家では、様々な自然観察会を行っています。しかし、担当する哺乳類の観察会では、野生動物(ここでは哺乳類のこと。以下同様)の姿をじっくり観察することがなかなかできません。見つけた動物の足跡や食痕が誰のものか推理する、楽しさいっぱいの哺乳類観察のことを少しでも知って欲しいと思い、動物の暮らしがわかるような様々な痕跡を拾い集めています。

クルミや松ぼっくりに残された食痕や落ちていた糞・骨などを拾うことから始まり、足跡の石膏型取り、さらに洗った糞から出てきた骨の素性を調べるために、ネズミやモグラの死体で骨や毛皮の標本を作りました。また、秦野市の鳥獣害対策で殺処分された中型動物や、状態の良い交通事故の死体なども『埋めてしまうのはもったいない! 標本にできるのでは?』と、いただいているうちに、くずはの家の冷凍庫はあっという間に一杯になってしまいました。

くずはの家には一般の来館者のほか、遠足や校外学習でたくさんの子どもたちがやって来て、何気なくタヌキやアナグマの剥製をなでていきます。手触りで確かめたいのかなのでしょうか。しかし、展示してある本剥製は防虫効果の強い薬品を使っているうえ大勢で触ると痛んでしまいます。さらに台座に固定されているので、足の裏や雌雄を見分ける腹側を見ることができません。普通の動物の姿を詳しく観察する機会が無いのです。大人向けに冷凍の動物

を見せたことがありますが、よほど興味のある人しか見てください。じっくり見るチャンスなのにもったいない!

冷凍庫には色々な種類の動物はいるけれど、標本を作る予算がありません。そもそも展示するための場所もありません。でも子どもたちが抱っこしたり、足の裏まで見せられる標本を作りたい…ということで、自分で作ってみることにしました。材料はホームセンターやインターネットで入手。作業はとても時間がかかるので勤務中には出来ません、何度かくずはの家で場所を借りましたが、ほとんどは自宅での作業になりました。

インターネットや本で断片的な情報を仕入れ、帝京科学大学の学生さんや、秦野市の鳥獣対策担当の岩田さんに道具や剥き方を教えて頂き、試行錯誤しながらアライグマやハクビシンの毛皮をなめてみました。それをくずはの家のお客さんに見せたのですが、平たい毛皮ではどうも元の姿が分かりにくいようです。そこで目



▲タヌキの標本、今にも動き出しそう!

にはボタン、体に手芸用の綿を詰め込み、皮を縫い合わせ、出来上がった抱っこ出来る標本、リアルぬいぐるみ1号がハクビシン君です。

みんなどんな反応をするのかな?…子どもたちに見せたら予想以上の手ごたえで、観察会に使えそうです。内心しめしめと思いつつながら何体か作ったのですが、できればに不満があり、色々模索していました。そんな中、くずはの家で講師をお願いしている、おい自然園園長の一寸木先生から、神奈川県立生命の星・地球博物館に日本で唯一人の標本士・相川稔さんが定期的に来られていると知り、ぬいぐるみを持って相談しに行きました。そして博物館の標本作りボランティアに参加するようになり、相川さんや学芸員の加藤さん、広谷さんなど多くの方々に、哺乳類に限らず様々なことを教えていただくことになりました。

里山動物セットがほぼ出来上がり、ぬいぐるみたちは、くずはの家保育園児や小学生がやって来たときだけでなくボランティア指導員の「えのきの会」の展示会、秦野市市民の日の環境保全課ブースへの貸し出しなどで活躍しています。また、公民館行事や、短大のサマースクール、小学校の総合学習に、時には自然系施設の行事へ貸し出すようにもなりました。



▲むきむき倶楽部活動



▲ムササビのリアルぬいぐるみ



▲くずの家では本剥製の展示も見るができます

初めは本物らしさを目指していたぬいぐるみですが、実際に使ってみると、抱いたときの柔らかさやしなやかさが耐久性につながり、必ずしも芯が入った本剥製らしくなくても良いという印象を受けました。標本を自分で作る一番のメリットは、使う場面にあったグッズを作れることだと思います。ぬいぐるみにした動物の種類が増えると、フィールドサインなど他の標本との組み合わせで、観察会プログラムの幅が広がります。最近では月に一度休館日に、標本作成チーム「むきむき倶楽部」が様々なアイデアを出しあい、手分けして作業をしています。あとは難しく断念したサルを除

き、アナグマを仕上げれば里山の動物がほぼそろいます。

普段ぬいぐるみは、防虫剤と一緒に茶箱に押し込み、使うときだけ出しています。それでも様々な動物標本の中でも一番出番が多いです。「やさしく触ってね」とは言いますが、子ども達にはなるべく自由に触ってもらっているのです。ぬいぐるみでもいつかは壊れます。でもそれはたくさん使ってもらったということですから、それまでは命を落とした動物たちに、もうしばらく活躍していただこうと思っています。



▲展示の本剥製では見ることができなかった足の裏側
上:アライグマ 下:ハクビシン (共に右:前足、左:後足)



▲観察会用に改良したアズマモグラの標本
食性がわかるように歯を見せた(左下)

リアルぬいぐるみ(中型哺乳類用)制作工程

作り方の工程は大きく分けると ①はがす②なめす③復元作業 の3段階になります。ここでは、くずの家での「リアルぬいぐるみ」の制作工程を説明します。

※専門家の指導のもと制作を行なっています。

野生動物の死骸にはノミやダニなどが寄生している場合もありますので、決して素手で触らないようにしています。

剥皮

体重と各部の測定記録後、ノミ・ダニなどの寄生虫を駆除するためにも1度は冷凍する。解凍後、腹側の首元から下腹部と、尾の皮膚に切れ目を入れ、着ぐるみを脱がせるように皮をはがす。皮に付いた筋肉や脂肪などを取り除き、濃縮タイプの台所用洗剤で残った脂肪や汚れをよく洗う。

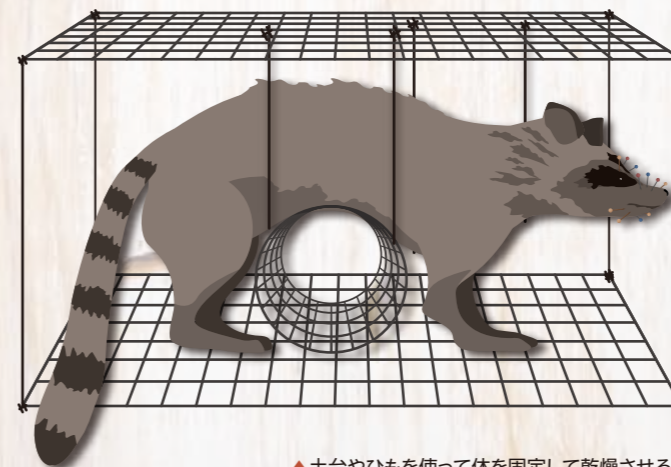
なめし

水気を取った毛皮を、生みょうばん・塩各10%の水溶液に入れ、時々攪拌しながら5~8日漬け込む。皮が白っぽく変質したら水洗いし、ワイヤーラックなどに広げて影干する。乾燥に伴い脂肪が滲み出てきたら、そのつどふき取る。十分に乾燥させて出来上がり。脂肪が残っているようならベンジンで洗浄する。

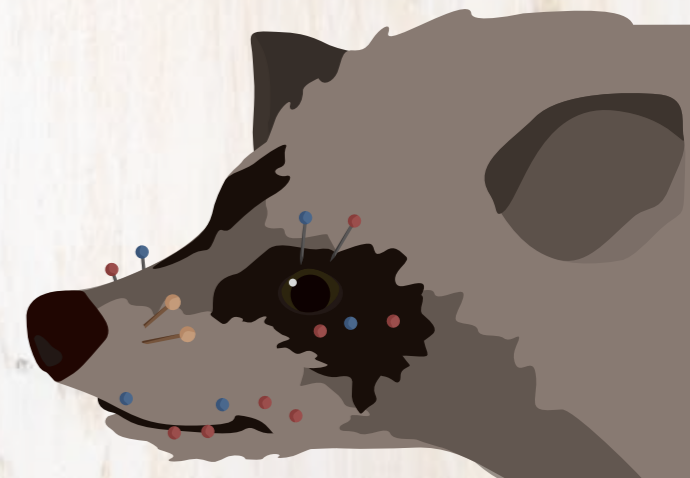
ぬいぐるみ作り

毛皮は水でもどしておく。スタイロフォームで作った頭の芯を毛皮の頭部に入れ、まち針で表情を固定する。尾は紐を通して適度に手芸用綿を入れながら縫い合わせる。指や肉球にシリコンシーラントを充填する。足、胴体の順に綿を入れながら縫い合わせる。吊るしたワイヤーラックに形を整え固定し、充分乾燥させる。まち針をはずしブラッシングして出来上がり。

[制作過程イメージ図]



▲土台やひもを使って体を固定して乾燥させる



▲自然な表情になるようにまち針で固定



できあがり!

プロフィール



味のま
味壘 真理

かながわのナショナルトラスト第一号指定緑地内、秦野市くずのは広場指導員として勤務
くずの家では哺乳類と地学関係を担当

桜ヶ丘緑地で

むしとり大会 10年目

桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト 代表

あらかわ あけみ
荒川 朱美

横浜駅から電車で10分の都会のど真ん中に残された1.2haの小さな谷戸が桜ヶ丘緑地です。この緑地の里山管理・保全のボランティアをはじめ13年目。

これまで生物が多様な環境にしようと5面の田んぼなどのビオトープを作りました。その甲斐あって、多くのチョウやトンボ、バッタなどの昆虫が生息しています。

活動を開始して3年目の2008年から近隣の小学生を対象に「親子むしとり大会」をはじめました。普段は街中に埋もれた静かな緑地ですが、この日だけは特別です。およそ30組の家族、総勢100名近くの親子が網を振り回す状態。虫たちより人の方が多いような気もしますが、そ

れでも毎回多種類の昆虫が採集されています。その頃は捕獲数を競い合っていて、細かく種類別に集計していませんでした。

第5回の5年目から神保 賢一路先生が講師をしてください、チョウやトンボなどの名前を同定を求める子供たち一人ひとりに丁寧に解説いただき、採集後のまとめのお話でも貴重な虫の事、虫の生態について、子供だけでなく大人にとっても大変勉強になります。

普段のボランティア作業は毎月第1日曜日、第3土曜日に開催しています。虫好きの親子はぜひ、ご参加下さい。



10年目で出会ったゴマダラチョウ



虫たちより人のほうが多いかも・・・？



マカスツキンカメムシ終齢幼虫



支援の輪をひろげるために
みんなで募金活動！



オオシオカラトンボ



ジャコウアゲハ



ショウジョウトンボ



ナガメ



むしとり大会は
緑地の生態系を知る
重要なモニタリング
調査なのです



神保氏



神保先生より

人が育てば、自然が育つ。自然が育てば人が育つ。そんな思いと願いを込めて「桜ヶ丘緑地のむしとり大会」は2008年から始まったそうです。

小さな里山の中のむしとり大会。毎年恒例のむしとり大会には多くの親子参加がされている。小さな谷戸の中に子供達の真剣で輝いた声があちらこちらから聞こえてきます。親子参加ということで、お父さん、お母さんも一緒に虫取りに参加しています。はじめは穏やかで落ち着きをはらった大人たちも次第にヒートアップしてくるのが印象的でついには子供から虫取り網を取り上げて夢中になってしまうお父さんの目は子供以上に輝いています。

豊かな自然の中には小さな命がいっぱいです。子供たちによって捕獲された虫たちは種の同定を終えると再び野外に戻される。命と付き合うルールを学習する実践的プログラムに感心させられます。私は第5回目から参加させて頂いていますが、子供たちの虫取り能力には毎回感心します。大人の目線では到底気がつかない小さな生き物たちを次から次へと見つけてきてくれます。ヤマトタムシ、ノコギリカミキリ、ヒメクダマキモドキ、ショウリョウバッタモドキ、などが続々と集まってきます。「むしとり大会」と言うちょっといぶかしげに感じる方もいるかも知れませんが、本大会は地域の生態系の現状をリアルタイムに知ることができる極めて重要なモニタリング調査を兼ねていると思います。荒川さんをはじめ多くのスタッフの皆さんのきめ細やかな気配りと安全対策によって毎年貴重な記録がファイルされています。同一環境で毎年同じ時期と時間、捕獲方法も決めて調査や観察を行うことで様々な変化に気付くと思います。地域の自然の状態を住民の皆さん自身互いに共有することはとても重要な取り組みだと思います。今後とも桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクトの皆さんのご活躍に期待しております。

じんぼ けんいちろう
神保賢一路氏 (緑地環境プロデューサー)

むしとり大会 採集結果



チョウ



バッタ



トンボ



その他

回数	年月日	チョウ	バッタ	トンボ	その他
第1回	2008年8月3日	30頭 ●ナミアゲハ ●アカタテハ幼虫 ほか	29頭 ●ショウリョウバッタ ほか	52頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ●ショウジョウトンボ ほか	●カマキリ ●コオロギ ●サワガニ ●ナナフシモドキ
第3回	2010年8月2日	30頭 ●モンシロチョウ ●シジミチョウ ●スジクロチョウ ●ゴマダラチョウ ほか	87頭 ●ショウリョウバッタ ほか	52頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ●ショウジョウトンボ ほか	●キマワリ ●カメムシ
第4回	2011年8月7日	39頭 ●モンキチョウ ●モンシロチョウ ●ナミアゲハ ●アオスジアゲハ ほか	98頭 ●ショウリョウバッタ ほか	52頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ●ショウジョウトンボ ほか	●コガネムシ ●コクワガタ ●コオロギ ●サワガニ
第5回	2012年8月5日	8頭 ●ナガサキアゲハ ●モンキアゲハ ●ナミアゲハ ほか	88頭 ●クビキリギス ●ショウリョウバッタ ほか	60頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ほか	●コガネムシ ●ツマグロヨコバイ ●クモ
第6回	2013年8月4日	60頭 ●モンシロチョウ ●ナミアゲハ ほか	112頭 ●ショウリョウバッタ ほか	41頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ほか	●テントウムシ
第7回	2014年8月3日	16頭 ●カラスアゲハのメス ●ナミアゲハ ほか	87頭 ●ショウリョウバッタ ほか	52頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ●ショウジョウトンボ ほか	●クワガタ ●カブトムシ
第8回	2015年8月2日	7頭 ●アカボシゴマダラ ●ナミアゲハ ほか	27頭 ●ショウリョウバッタ ほか	43頭 ●コオニヤンマ ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ほか	●シオアブ ●スズメガ
第9回	2016年8月7日	33頭 ●ナミアゲハ ほか	94頭 ●ショウリョウバッタ ほか	40頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ほか	なし
第10回	2017年8月6日	32頭 ●クロアゲハのメス ●カラスアゲハのオス ●ナガサキアゲハのオス ほか	116頭 ●クサキリ ●ササギリ ●ショウリョウバッタ ●ヤマトフキバッタ ほか	34頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ほか	●テントウムシ ●サワガニ
第11回	2018年8月5日	13頭 ●ナミアゲハ ●ヤマトシジミ ●ナガサキアゲハ ●ゴマダラチョウ ほか	115頭 ●オンブバッタ ●ショウジョウバッタ ほか	42頭 ●シオカラトンボ ●オオシオカラトンボ ●ショウジョウトンボ ほか	●コガネムシ ●カメムシ ●ヨコヅナサシカメ ●キマワリ



■桜ヶ丘緑地の出入口は民有地を通るため、通行の許可が必要で自由な立入りができません。緑地を訪れたい方は定例のボランティア活動や自然観察会等にご参加ください。

■みどりのトラスト会員(桜ヶ丘緑地のために)・寄付のお願い
普通会員から任意で加入でき、年間3千円から桜ヶ丘緑地の保全への支援ができます。このほか、桜ヶ丘緑地保全のための寄付も受付ています。

■桜ヶ丘緑地でボランティア活動への参加
「桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト」の自然再生活動や環境維持活動に参加できる方を募集しています。定期的な活動は第1日曜日、第3土曜日を実施しています。詳しい内容については財団事務局へご連絡ください。

森からの贈りものプロジェクト進捗状況

これまで緑地管理で処分されてきた木々を、寄附の木工返礼品として生まれ変わらせる取り組みを昨年冬より開始してきました。木工を手掛ける(社)街の木ものづくりネットワークの湧口善之さんより、加工作業の途中経過の報告をいただきました。

【森からの贈りものプロジェクト寄附も受付中です。詳しくは財団事務局まで。】

前号では、久田緑地での丸太の選別、移送、製材、乾燥、荒木取、と作業を進めてきたムクノキの加工が更に進み、最終的な品物(額縁)の部材の仕上りサイズまで、綺麗に削られた角材になるところまでご紹介しました。



▲いくつもの工程を経て、製品に使用できる部材までできました

「木材」と聞くと、積み木のように直角に削られた角材や、表面が平らに削られた板のようなものを想像されるかもしれませんが、丸太からそうした状態にするまでが、丸太からのものづくりでは7割くらいかもしれません。ノコギリで切ったり、ノミで穴を掘ったりといったいわゆる木工らしい作業は、そこからようやく始められるようになるのです。

都市緑地から出る丸太からのものづくりは、狩猟した野生鳥獣から料理を作るような困難を克服しなければなりません。スーパーの棚に並んでいるお肉は、洗練された大規模な仕組みが日々稼働していればこそ、経済的な価格と使いやすい状態で提供できています。それに対して、都市緑地にある木々で、突然強風で倒れたり傷みが酷かったり隣地にはみ出したりして伐られた木々は、素材として見れば野生鳥獣のようなものなのです。美味しいお肉になるように上手に仕留めることも難しければ、それ用の食肉加工設備もない、種類も大きさもまちまちで肉質もバラバラ。趣味で少し食べることは楽しくできても、「それ以上」を求めるとまったく別の性質の仕事になってくるのです。

この「それ以上」を求めることにこそ、都市緑地の木々を活用して、緑地の保全費用を捻出せんとする今回のプロ

ジェクトの本質、言い換えれば、このプロジェクトで克服すべき課題があります。

都市緑地の木々で木工品を作ること自体が難しいわけではないのです。一度きり、赤字前提の作品展をしようというのであればどんなものだって作れます。そうではなく、人件費の高い日本で、丸太からのものづくりをするインフラのない都市部で、野生の獣のような手間のかかる素材を使って、製品レベルの品物を製作し、最終的に緑地保全に寄与することにチャレンジしているのです。山の林業であっても難しい、助成金のようなもので、「都市林業」を成立させることにこそチャレンジしているのです。

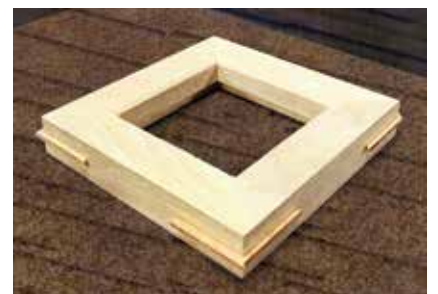
本プロジェクトの内容は、これまで「ミドリ」No.107・109・110に掲載しています



▲45度に端部をカットされ、裏側の溝も掘られた部材を接着して組んでいきます



▲接着剤が乾いたら、角の接合部にノコギリで溝を切ります



▲切った溝に別の部材(久田緑地で伐られたウワミズザクラ)を入れて補強します



ゆぐち よしゆき
湧口 善之

建築家・木工家・緑地コンサルタント
(一社)街の木ものづくりネットワーク(マチモノ)代表理事

プロフィール

2019年4月からのイベントはNO.112(3月発行)に掲載します。

2018年度 かながわトラストみどり財団

主催イベント

！ 徒歩

※の数が多いと
コース難易度が
上がります

野鳥観察

約5km・ほぼ平坦

2019年

3月2日(土)

9:30~15:00

会員 無料
一般 1,000円
学生(小~大) 500円

早春の相模川で バードウォッチング

【講師】
相模原市立博物館
学芸員(生物担当)
秋山 幸也 氏

【集合】
JR相模線
下溝駅改札前 9:30



30人(抽選)

受付:1/1~1/31

※先着順受付から抽選に変更しました。

【コース】下溝駅~三段の滝広場~磯部頭首工~下磯部大岡広場~座架依橋付近~相武台下駅 徒歩:約4~5km 【持ち物】防寒着、双眼鏡 ※雨天中止
◆春まだ浅く、冬鳥が落ち着かなくなる季節の変わり目に、相模川中流で野鳥を観察します。下溝駅から相武台下駅までの区間を歩きます。

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団 みどり企画課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20

fax 045-412-2300 〓 midori@ktm.or.jp

web www.ktm.or.jp

【申込方法】イベント内容をご確認の上、●参加を希望するイベント名 ●参加希望者全員の氏名・住所・電話番号 ●会員の方は会員番号を明記して、FAX・Eメール・ハガキ・財団WEBサイトにてお申し込みください。【雨天の場合】原則として小雨天決行です。集合場所にて講師がコース変更等を判断します。【お願い】集合時間になりましたら出発します。遅れないようご注意ください。



県民参加の森林づくり活動

麻生区 川崎市 栗木山王山特別緑地

2019年

1月19日(土) 竹林整備

予備日:なし

【集合】小田急多摩線 栗平駅南口 8:30

【共催】(公財)川崎市公園緑地協会

100人(先着順)

受付中

※徒歩で移動 ※自家用駐車場はありません



【行程】栗平駅南口(徒歩で移動)⇒現地 ⇒ 栗平駅南口

※写真はイメージです

※定員になり次第締切

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団 みどり森林課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20

fax 045-412-2300 〓 midori@ktm.or.jp

web www.ktm.or.jp

【申込方法】活動内容をご確認の上、●参加希望日 ●参加希望者全員の氏名(ふりがな)・住所・電話番号 ●森林整備活動登録番号をお持ちの方は登録番号を明記して、ハガキ・電話・FAX・Eメール・財団WEBサイトにてお申し込みください。

【雨天の場合】予備日のある場合は延期、ない場合は中止となります。

【実施の可否の確認方法】実施日前日の18時以降に、電話(045-412-2255)でご確認ください。録音テープでご案内します。



平成30年度 緑化運動・育樹運動コンクール

「緑化運動・育樹運動コンクール」は、ミドリの募金活動によって行われています。

2018年11月24日(土) 緑化運動・育樹運動原画コンクール表彰式を開催しました。県内の小中高等学校に募集を呼びかけ、今年度は773点の応募があり85点が入賞しました。

ポスター原画コンクール 最優秀賞



【小学校の部】「緑の日本」

伊勢原市立大山小学校 4年 関西 風次朗 さん

【講評】まさに宇宙時代の構図。夢のある微笑ましい仕上がりです。大きな木、小さな木、広葉樹に針葉樹…楽しみながら描いている作者の様子が眼に浮かぶようです。



【中学校の部】「地球を守ろう」

秦野市立南中学校 3年 山口 優香 さん

【講評】ひれが緑に…ファンタジックなメルヘンの一場面。不安と期待と想像力を掻き立てる不思議な作品です。



【高等学校の部】「苗木の未来」

神奈川県立 神奈川工業高等学校 2年 酒匂 藍子 さん

【講評】苗木から発散される未来の光、水玉が浮く緑陰の中に多様な生き物たちの肖像画をリアルに表現した作品です。シンメトリーな構図も見る人の目を苗木に集めるのに効果的です。

標語コンクール 最優秀賞

【小学校の部】 横須賀市立田戸小学校 3年 齊藤 七海 さん 「森や木は いきものたちの おかあさん」

【講評】「おかあさん」が印象的で、全てものが湧いてきて、生まれてくるようなイメージが感じられ、「森」や「木」がうまく擬人化表現されているように感じられました。

【中学校の部】 厚木市立依知中学校 2年 熊埜御堂涼太 さん 「その1本が みんなの未来を 支える木!」

【講評】1本の木を植える・育てるといふ小さな取り組みから、未来をつくっていくという意味合いが感じられる作品です。

森林での癒やし体験

各地の森林や緑地で活躍する森林インストラクターから自然環境にまつわる、さまざまな話を聞く連載企画。一里歩いて一里塚で休息をするような、そんな肩肘張らないお話です。

こばしまりえ
かながわ森林インストラクター 小林 真理恵

森の中にいると気持ちが落ち着いたり、清々しい気持ちになる「森林浴」は最近「森林セラピー」とも言われ、様々な効果が期待されています。

「森林セラピー」とは、森林浴の癒やし効果を科学的に解明し、こころや体の健康に活かそうとする一歩進んだ森林浴のことです。森の中へ来て、気持ちがリラックスする効果だけでなく、実際に身体の免疫力が上がる、血圧が低下するなどの科学的効果も見られています。精神的な落ち着きをもたらすフィトンチッド、いわゆる「森林の香り」というものですが、香りの心身へ与える影響は思っている以上に大きいものだと日々実感しています。

体の免疫力が上がる、血圧が低下する、などの効果の他、ストレスホルモンを減少させ、「緊張」「うつ」「怒り」「疲労」などの状態を緩和減少させ、自律神経の活動を高め、抗ガン効果もあると言われています。

各自治体でも訪客者に気軽に癒やし効果を体験出来るよう、森の中での呼吸法やヨガ、アロマセラピーの催しを組み込んだプログラムの開催しているところも多くなってきました。

難しい呼吸法などではなくてもスギやヒノキ林で深呼吸をすることで高いリラックス効果を得ることが出来ますし、クロモジやミカンの葉はもんで匂いを嗅ぐと、とても良い香りがし、手軽に楽しむことが出来ます。また、風に木の葉が揺れている様子を眺める樹幹のゆらぎ体験などもリラックス効果を更に深めることが出来ます。

人々はかつて自然と共に生活をしていました。現代では自然に触れる機会は少なくなってきましたが、まだまだ美しい自然は残っています。

今後もこの自然を守り続けて、自然がくれる恵みを大切にしていきたいと思います。



小網代の森 2018年8月25日(日)開催

アカテガニ放仔観察会

毎年恒例のアカテガニ放仔観察会を開催しました。小網代の森を散策後、ガイダンスを終えた参加者は陽が沈むころ、長靴に履き替え海に入り放仔を待ちます。暗くなった海に姿を現すアカテガニの自然の営みを邪魔しないよう海から観察しました。

参加者からは「カニでできた!」、「放仔してる!」等の小さな歓声。調整会議のスタッフからも「今日はカニが多いね」と一言。たくさんの放仔を観察できました。



アカテガニの放仔

イベント報告

放仔観察会代替イベント 2018年11月11日(日)開催

アカテガニ赤ちゃんの冬のお家をつくらう観察会



越冬場所の瓦積みピオトープに丁寧にかぶせる



今年は台風などの荒天により中止が相次ぎ、その代替イベントとして開催しました。

母ガニから放たれたアカテガニの幼生は1ヶ月ほど海で育ち、子ガニとなって陸で生活を始めます。そこで、冬を越すための棲みかを作るボランティア活動を行いました。参加者は40名を超え、家族連れも多く、子供たちの活躍もあり大変賑やかなイベントとなりました。

上:講師の岸氏からのアカテガニの生態解説
下:落ち葉を集め、越冬場所の暖湿効果を高める

イベント報告

新たな優待施設が加まりました！ 2018年12月より開始
 トラスト会員の皆さまは、会員証のご提示で優待を受けることができます。



60以上の樹種に囲まれるインテリア

当財団事業「森からの贈りものプロジェクト」に携わる街の木ものづくりネットワークの湧口氏が設計、内装を手掛けられて2018年の春にオープンしました。県内外で産出された都市の樹木をふんだんに使い、内壁から机や椅子などの家具製作まで、約60種類の樹種の色合いや質感を楽しむ魅力溢れる店内です。(事務局)



店主の大矢野夫妻



様々な樹種から生まれる様々な色合い



**Hot cake parlor
 湘南リトルツリー**

【営業時間】 11:00~16:00 ラストオーダー15:30
 【定休日】 月曜日・木曜日(臨時休業あり)

【アクセス】 バス…平塚駅北口よりバス(平35)で約23分「湘南平」駅下車
 駐車場…高麗山公園大駐車場すぐそば
 神奈川県平塚市万田790-24
 ともしびショップ湘南平/湘南リトルツリー

☎・📠 0463-34-7041

会員証のご提示で **コーヒー1杯無料**
期間限定
さらに! 本日のトッピング付!
 2018年12月15日(土)~2019年3月15日(火)の3ヶ月間限定
 【年末年始休みは12月27日~1月4日】



11月11日 放仔観察会代替イベント
 アカテガニ赤ちゃんの
 冬のお家をつくろう観察会 感想

✉ 小網代の森を訪れたのは開園記念イベント以来で、ガイドさんと一緒にあるき、谷戸の植生や地形と動物の関係性などよく分かり勉強になりました。(後藤さまより)



➡ 友人だけでリラックスして散策するのも楽しいですが、ガイドと一緒に歩くと様々な場所での動植物や新しい森の魅力を発見できると思います。(事務局)

イベントや機関誌ミドロの感想など、お寄せいただいた中から一部を紹介します。

市民団体の活動 ボランティアデビューをしてみませんか?

どなたでも無料でご参加いただけます
小網代の森ボランティアウォーク

**毎月
 第3日曜**

【集合】
 京急三崎口駅前

9時30分~
 12時(現地解散)
 ※雨天中止

どなたも 無料

**申込不要
 直接現地へ**



【主催】小網代野外活動調整会議
 ☎ 045-540-8320

汚れてもよい山歩きの服装で、申込は不要です。スタッフが小網代の森の自然の様子や保全事業の状況を解説しながら散策し、ごみ拾いなどの体験ボランティアをしていただきます。

※団体参加の場合は事前に小網代野外活動調整会議までご一報ください。

(公財)かながわトラストみどり財団への会費や寄附は確定申告をすることによって、所得税、住民税の還付を受けることができます。ただし、県民税や市町村民税の控除は各自治体によって異なります。なお、控除額の計算は①か②のいずれかを選択することができます。

①税額控除(所得税)

① 所得税の減少分

(年間の公益法人等への寄附金総額-2,000円)×40%

② 住民税の減少分

県民税(年間の公益法人等への寄附金総額-2,000円)×2%

(②の例): 横浜市税

(年間の公益法人等への寄附金総額-2,000円)×8%

②所得控除

(年間の公益法人等への寄附金総額-2,000円)の金額を、その年分の所得から控除するもの。

相続税の非課税

相続された方が相続財産を、相続税の申告期限(亡くなってから10か月)までに寄付された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。



財団は県内各地において、かながわのナショナル・トラスト運動及び県土緑化運動を行い、自然環境、歴史的環境の保全と緑化の推進を図っています。みどり豊かな神奈川にすることを目的に、これからも活動に取り組むため、財団の事業へご支援をお願いします。

財団オリジナル
ボールペン(1本)をプレゼント!

No.111 冬号
かながわのナショナル・トラスト
運動応援キャンペーン企画



締切
2019
1/31
木

今号キャンペーン企画として、同封の振込用紙で500円以上の募金をいただいた方へ、財団オリジナルボールペンを1本プレゼントいたします。

ノック部分がスマートフォン等に使えるタッチペンになっているボールペンを青色とエンジ色(赤茶)の2色からお選びいただけます。

同封の振込用紙の取扱いについて

- ① 本用紙は「キャンペーン用振込用紙」です。会員会費の振込には使用しないでください。
 - ② 振込の内訳に記載がない場合は、財団事業への寄附とさせていただきます。
 - ③ 手ぬぐい不要の方は振込用紙の通信欄に☑をお願いします。
 - ④ 領収書等礼状の不要、ミドリ等の掲載不要(匿名希望)の方は通信欄に☑をお願いします。
 - ⑤ オリジナル品のため、数に限りがあるためプレゼント企画を2019/1/31で締切させていただきます。
- (公財)かながわトラストみどり財団への寄付金は、所得税・法人税の控除が受けられます